

風紋

動きだそう!今、ここから ~チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム~

第43回全国公立小中学校事務研究大会 (鳥取大会)

ひろがれ! 鳥取の風紋 あなたの心へ



鳥取大会に 2,152名 のご参加
ほんとうにありがとうございました。



全国から大勢の皆様に参加していただいた鳥取大会を、盛会のうちに無事終了することができました。これもひとえに皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

この3日間、どの日をとっても超目玉品を取りそろえ、皆様に満足していただけたことと自負していますが、いかがだったでしょうか。

大会に、予想を大きく上回る2,152名の参加者があったことが盛会の原動力となりました。

その要因の1つは、「教育課程の実施と学校事務」という特集テーマにあったと思います。これまで行政部門に特化した仕事を目指してきた事務職員にとって、大きく教育部門へも舵を切るきっかけとなるテーマだったということで、皆様の関心が高かったのではないのでしょうか。

もう1つの要因は、『日本を元気にするためのヒントが鳥取にあるのでは!?!』という期待感があったからではないかと思います。鳥取県の事務職員は逆境を乗り越えた経験があります。それは現時点でも同じですが、あの“なでしこジャパン”のように諦めずに先を目指している姿に共感してくださったのか

しれません。鳥取の元気が、全国の地に風紋を残しながら広がっていくことができれば幸いです。

今大会は全国大会でしたが、鳥取県にとりましては県大会という位置づけでもありました。過去、県大会を開催した時に来賓の方から言われたことがあります。「もったいない。事務職員がこれだけのことを研究しているのに、事務職員だけのものとして終わらせているなんて。もっと、校長にも声をかけて参加してもらい、ともに研究した方が教育のためになるよ。」と。この言葉を聞いて以来、なんとか管理職と共に研究できるような体制づくりはできないものかという思いがありました。

そこで、今大会を絶好のチャンスととらえ、県内の校長先生方に参加要請をして回りました。その甲斐あってか、たくさんの校長先生方に参加していただくことができました。これは、今後の鳥取県事務職員にとって大変大きな成果となることでしょう。

「チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム」まだまだ、研究は通過点です。この成果を持ち帰り、それぞれが研鑽し、また茨城大会でお会いしましょう。ありがとうございました。

鳥取大会実行委員長 森田真由美

🍌 とりなし小産 🍌

鳥取の梨はみどいろ?!

1888年に原木が発見された二十世紀梨。その甘さから「20世紀の梨の王になる」と1898年に「二十世紀梨」と命名されました。その生産量の半分を鳥取県産が占めています。鳥取では梨色としてみどりいろが愛され、本大会のあちこちで見かけることができます。例えば、集録袋、研究集録の合い紙、大会参加券などなど。そして会場に来てくれたトリピーも梨がモチーフなんですよ。



大会報告

大会2日目（7つの分科会）それぞれの担当者から、その場の様子や得られた成果などが報告されました。



本部研究分科会



第1分科会
熊本支部



第2分科会
岡山支部



第3分科会
広島支部



第4分科会
島根支部



第5分科会
山口支部



第6分科会
鳥取支部

今研究大会は何かが始まるチャンス！今後も研究を継続しましょう！



全体研究会

パネルディスカッション

兵庫教育大学大学院教授 日渡 円 氏

これからの事務職員に求められていることとして、学校が地域コミュニティの核になる時代、地域対応セクションを担い、地域のニーズに真っ先に気づきそのことを他の教職員に伝えて欲しい。

伯耆町教育委員会参事兼指導主事 小澤敦彦 氏

地域と共にある学校づくりを目指す上で職種の違う事務職員の強みは、視点が違うという部分である。また、全事研大会や研究会で培った運営力・企画力・ホスピタリティーを生かして地域に開かれた学校の窓口となって欲しい。

鳥取市立北中学校校長 木下公明 氏

学校づくりは地域づくりであること。また事務職員は、共に教育を語り学校を作る重要な存在である。

21世紀を担う子どもを育てているというプライドと使命感を持って欲しい。



コーディネーター
風岡 治 全事研研究部長

★パネリストの人選が素晴らしかった。木下先生の「校長の求める事務職員」となり、認めてもらって、さらに期待される（求められる）ことが自分の力を伸ばすことに繋がると感じた。（島根：女性）

★木下先生の「事務職員と教育の話もし、一体となって学校運営を行っている。」というお話が良かった。事務職員に対して色々な評価があると思うが、校長先生の方でも事務職員に心を開いてくれる方がたくさんいるといいと思う。（東京：女性）



閉会式・引継式

檜山幸子全事研会長が「みなさんの力で素晴らしい大会になりました。東日本大震災の復興には長い月日が必要かもしれないが、全国の事務職員が手を取り合い、震災による教育の困難を乗り越えてほしい。来年開催の茨城大会にも力を貸してほしい。」と挨拶を行いました。



第44回大会は、茨城県つくば市で開催

茨城大会の武藤健壽実行委員長が「全国のみなさんから勇気と元気をもらって復興していきたい。是非参加してください」と茨城大会への意気込みを熱く語られました。そして、大会旗が引き継がれました。

閉会

森田眞由美実行委員長が「テレビの地デジ化は終了しました。大会サブテーマのチ(エンジ) デ(ザイン) ジ(ム) & カ(リキュラム)も皆様の絆で全国展開していってもらいたい。」と鳥取大会の閉会を宣言し、会場全体は大きな拍手に包まれました。

玄関ホールでは、愛嬌をふりまく“トリピー”や“ととリン”全国豊かな海づくり大会(10月開催)キャラクターと記念撮影する参加者の姿がありました。



3人は固い握手をかわし、鳥取の風紋が茨城につながりました。



声/インタビュー

○鳥取大会での収穫・印象○

- ★カリキュラムについて、日頃意識していないのが現状である。発表をどのように現場に結び付けていくのかという気持ちになっている。(三重：女性)
- ★大会テーマに少しでも迫るための実践をめざしたい。(福井：男性)
- ★採用1年目で、先輩に全国の風を感じてくるようにすすめられた。(岡山：女性)

- ★手作りのメッセージボードや和紙の優しい感じなど、おもてなしの気持ちを感じた。

(岡山：女性)



生花で作った鬼太郎・カニなど

- ★少ない人数で運営を頑張っている。速報の写真もきれいで、とってもよかった。(滋賀：女性)
- ★支援物資、義援金などを全国からいただいたお礼の意味で参加した。被災地はまだまだ厳しい状況にあるので、元気を持ち帰りたい。事務職員はひとつ。被災した学校でも事務職員の果たした役割は大きかった。(岩手：女性)

○鳥取の印象○

- ★鳥取はきれいで昔の町並みが残り、なかなかいい町。(東京：男性)
- ★一度山陰に来てみたかった。落ち着いた感じの街で好感が持てる。(福岡：男性)
- ★鳥取県は遠いと思った。(宮崎：男性)
- ★近くてもあまりなじみがない。(岡山：女性)
- ★温泉にも入って、満喫しています。(愛知：女性)

- ★街としての歓迎ムードがすごい、若桜街道のポスターはびっくりした。

(滋賀：女性)



- ★姫路から単線だったのがびっくりした。

(石川：男性)

- ★砂丘に感動！(愛知：男性)
- ★砂丘が辛かった。(宮崎：男性)
- ★砂丘が大きかった。(香川：女性)
- ★友人と2人で焼き鳥を食べに行った。地酒を飲んだ。おいしかった。(福岡：男性)
- ★二十世紀梨を食べたかった。(福岡：男性)
- ★豆腐ちくわを食べて帰ります。(千葉：男性)
- ★いがいご飯はイガイと美味しい！(岡山：女性)
- ★お酒、白イカ、岩ガキが美味しい！(宮崎：男性)
- ★砂丘、大山、蒜山のソフトクリームも好きである。(広島：女性)
- ★おみやげにらっきょうと魚を頼まれている。(島根：男性)
- ★すいかがたくさんあってびっくりした。(広島：女性)
- ★かに弁当おいしかった。セレクト制は初でいい。(滋賀：女性)



速報スタッフ あとがき

少人数の鳥取県で、果たして翌日配布の速報を作ることができるのか不安がありました。

インタビューをお願いしたところ、快くお答えいただき、なかにはわざわざ広報室までインタビュー用紙を届けてくれた方がたくさんいたり、全国の皆様が鳥取の良さを感じていることが分かり、大変うれしく思いました。

速報作成に携わって本当に良よかったと思います。

速報作成に協力いただきました皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



お待ちしております，茨城で

第44回全国公立小中学校事務研究大会が、来年の夏、科学研究学園都市つくばで開催されます。暑い夏、未来を拓く子どもたちの健やかな育ちと学校事務を熱く語り合ひましょう。

大会テーマ：「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

特集テーマ：「学校評価システムの構築と学校事務機能」

期 日：平成24年8月2日（木）～3日（金）

会 場：つくば国際会議場（茨城県つくば市）



茨城大会は全事研の第7次研究中期計画の4年次にあたります。鳥取大会で実った教育課程の実施における学校事務機能及び事務職員の役割を、学校評価システムのなかにもどのように位置づけ評価し、そして改善につなげていくのか。また、学校評価に果たす事務職員の役割や地区学校事務室のあり方などを検討していきます。

大会2日目に行う分科会では、全事研本部のほかに、東北地区（岩手支部・宮城支部・秋田支部）、東海地区から岐阜支部、そして関東地区から東京(中)支部・神奈川支部・茨城支部の6分科会から提案をいただきます。

開催主管支部である茨城県は、東北地方と同様に東日本大震災において甚大な被害をこうむりました。メイン会場となる予定でした茨城県立県民文化センターも被害の程度が大きく、予定期日に使用できない事態になりました。そのため、計画自体を再検討いたしまして、つくば市を会場に2日間での開催という内容に変更させていただきました。全国の皆様には、計画変更に至りましたことについてご理解いただきますようお願い申し上げます。



日本百名山「筑波山」

開催地であるつくば市は、茨城県の南に位置し、筑波山のすそ野に広がる近代的な学園都市です。一方では百人一首にも詠まれ、遠い昔から万葉の里としても有名です。また、公共交通機関も充実しており、つくばと東京の秋葉原間を約45分で結ぶつくばエクスプレスを利用することで、東京からのアクセスが容易になりました。

実行委員会では、「子どもたちの笑顔と明日のために～支えよう未来を～」をキャッチフレーズに、全国の皆様に満足いただける大会を目指し、まごころをもってお迎えいたします。安全・安心な科学の街、つくば市で全国の皆様を心よりお待ちしております。

茨城大会実行委員会